



大学変革時代における新しい取り組み

豊橋技術科学大学機械工学系の再編と人間・ロボット共生センターの設立

寺嶋一彦 (昭和56年博士課程修了)

昭和56年精密工学専攻博士課程(明石一研究室)を修了しました。現在、豊橋技術科学大学で働いております。本学は愛知県の東端で日本のおおよそ中央付近に位置し、名古屋からJRで50分、浜松から30分のところにあります。33年前に、国立大学として、85番目にできた工科大系大学です。

昨年5月、10数年ぶりに、明石一先生研究室の同窓会と、熊本博光先生の退官記念パーティが同時に行われ、恩師や級友と久しぶりに会え、懐かしい思いで楽しいひと時を過ごせました。明石先生は90歳になられたと思いますが、私が学生在籍の時とお変わりなく、元気をいただくことができ本当にうれしく思いました。幹



明石一研究室同窓会の集合写真(平成22年5月30日、京大百周年時計台記念館国際交流ホールにて)

事の方々から、また近いうちに明石研の同窓会をしましょうという号令に素直に喜びを覚え、同窓会の意義を感じたものでした。

本誌である京機会（京大機械同窓会誌）だよりを編集責任者の久保愛三先生より同窓生に配信して頂いており、時々読み楽しんでいます。国立大学も法人化され大変忙しい状況です。私も働き盛り（？）の年齢のせい、現在奉職している大学で新しい色々なことをやらせていただいております。この数年、私が腐心してきたトピックス2つを話題提供させていただき、同じような経験をお持ちの皆さんからお知恵を拝借できるのではという期待と、長年会っていない仲間の方に、ひょっとして懐かしんでいただける機会かと思い投稿いたしました。

トピックス1： 豊橋技術科学大学機械工学系の再編：

豊橋技術科学大学では、昨年4月に再編を行い、8学科から5学科になりました。機械工学、電気・電子情報工学、情報・知能工学に、環境・生命工学、建築・都市システム学からなります。再編前は、機械システム科が力学中心の分野、また生産システム科が材料・加工・システムからなる応用機械的な分野を担当していましたが、再編で2つの学科を合併し、学部：機械工学課程、大学院：機械工学専攻となりました。

再編準備には、3年ほどかかりました。機械系の再編の主旨を依頼され正直大変でした。大学執行部は再編を実現したいのに対して、学科内の教員は従来通りでありたいという雰囲気強く、板挟みになり苦しみました。このあたりが一番ストレスになります。ただ、従来から機械システム、生産システムは、単独では、機械工学のカリキュラムの構築や、研究組織としては不完全とっていたので、再編には、当初より賛成しており推進していく活力源になっていました。

再編では、学科の名前を決めるときに苦労しました。当時の学長から古い名前はダメということで、考え抜いたあげく「機械知能システム」ということにしました。そうすると学科内からは、情報系のように見えるという反対が強くあり、これを引き金に再編はやめようという雰囲気が出てきました。中身が大事なのに、名前でダメというのはどういうことだと思いました。そこで思案の末、教員全員と、学部1年から博士3年までの機械系の学生全員に、10個の候補名を挙げアンケートを取りました。企業にも意見を求めました。その結果、1位が、断トツで、機械工学、そのあと、機械・生産工学、機械知能システムと続き、結局は機械工学という名前になりました。これで、皆さん安心し、その後は予想に反し大きくもめることはなく進みました。ただし、コース制を設けました。表看板である学科名は、機械工学というオーソドックスな名前にし、コース名は時代の要請に応じて変更可能にしました。再編1年目の、学部入試、大学院修士の入学試験は、

大学の中で、一番人気で、学科長としては、今のところ、正直胸をなでおろしているというところ。また、企業からも、機械工学という名前はわかりやすらしく、高校生からも、企業からも、好感のもてる名前ということのようです。

再編での原点のポイントは、学生のために発展できるシステムであらねばならないことかと思えます。この点は、これからの継続的課題でもあり発展させて行く必要があります。そのためには、教員同士のコミュニケーションが必要で、ブレインストーミングをして、弁証法的プロセスの、正—反—合—止揚（アオフヘーベン）のプロセスを経て、決めていくことは今も昔も変わらない気がしています。法人化して大学が教育・研究以外に忙しいことが増えすぎて、気ぜわしくなりました。生活のリズムを崩さず知的議論をして大学の良さを失いたくないという、当たり前のことを当たり前に実行していきたいものです。

以下、学科の概要をのせておきます。京大機械工学科の先生や皆様に、時間がございましたら今後色々ご指導いただきたく思います。



豊橋技術科学大学キャンパス (<http://www.tut.ac.jp/>)

【豊橋技術科学大学機械工学科概要】

機械工学課程／専攻では、機械工学のメカメカニクスなどを含めた基礎理論、及び機械やシステムデザイン技術を教育するとともに、21世紀の人間社会を見据えた環境・エネルギー工学技術や、人や環境に優しい高機能化材料、先端加工技術、マイクロ・ナノ技術の生産技術について教育します。さらに、しなやかな生産システム、計測・制御、システム工学などの智能メカトロニクス技術を教育します。機械工学課程／専攻の学部1年から3年までの学生は、一つの枠組の中で機械工学の全般を学びます。さらに、学部4年から大学院においては、機械・システムデザイン、材料・生産加工、システム制御・ロボット、環境・エネルギー、という社会が求める重要分野である4コースが設けられ、選んだコースを軸に、高度な専門を学びます。これにより、機械工学とその応用分野を、より広く、深く

学べます。ただし、コースの厳しい縛りにより、逆に機械工学を広く学べなくなることを避けるため、コースは、機械工学の学問体系を見える化することに主眼を置き、コース科目の選択自由度を高くすることで、学生の適性・志向に応じてテーラメイドな教育を実現することを図っています。これら機械工学のコア技術と、電子・情報、バイオ、医療、マネジメント技術を融合させ、それらを人工物から環境・エネルギー、航空・宇宙、生体・医療と様々な先進分野へ応用し、技術をブレークスルーできる人材を育成するために、魅力的なプログラムを用意しています。これらの教育研究活動を通して、社会に役立ち、愛され、また、人類に夢と希望を与えることのできる"人材を育成する"と共に、"新しい機械工学の知の拠点の構築"を目指しています。

・3つの教育コンセプト

機械工学全般と4つのコースを自由に選択することにより、以下の教育コンセプトを実現します。

1. 機械工学を広く学ぶ教育
2. 機械工学を深く学ぶ教育
3. 個性に応じたテーラメイド教育

・4つのコースの新設

機械工学に関する4つのコースを用意しています。

- ① 機械・システムデザインコース： 材料力学、機械力学、機械設計、生産加工法などの機械工学の基礎を学ぶとともに、それらを新材料の設計、システムの動的設計、成形加工法、CAE、マイクロ・ナノ構造創成技術、MEMS、バイオメカニクスなどの先端分野へ応用し、機械工学全般と、機械やシステムのデザインに関する分野で能力の高い人材を養成します。
- ② 材料・生産加工コース： 新素材（金属、セラミックス、高分子）、材料設計、組織制御、材料評価、加工プロセスの基礎を学ぶとともに、マルチスケールな材料組織の制御とその評価、およびそれらの実現のために必要な先端的な加工プロセスの開発などを探求します。これにより、機械工学を基盤とするものづくりのための材料と生産加工の分野で高い能力を有する人材を養成します。
- ③ システム制御・ロボットコース： ロボティクス、システム工学、最適化、計測、メカトロニクス、信号処理の基礎と応用を学び、機械工学全般と、ロボットや制御などメカトロ・システム工学分野で能力の高い人材を養成します。
- ④ 環境・エネルギーコース： 熱・流体工学、燃焼工学、エネルギー変換工学などの基礎と応用を学び、機械工学全般とエネルギーや環境分野で能力の高い人材を養成します。



機械工学課程・専攻の教育課程の流れ

本学は、1年生からのセンター入試を経てくる普通高校出身の学生数は全体の2割で、主流は3年次に、高専から8割の学生が編入してきます。大学院は、学部と同数の定員人数があり、大学院に重点が置かれています。学生数は、全体で、2000人程度で、留学生数、女子学生数は各々1割を占めています。教職員数は400名程度です。現在、頭を悩ましているのは、高専編入が創設当初は、本学が独占で優秀な学生を採れたのに対して、近年はどこの大学でも高専生編入の制度を採用するようになり学生獲得の競争が激しくなってきたこと、また、日本人の学生で博士課程に進学する学生が減ってき、アジア系の留学生ばかりが目立ってきたことなどです。これらの対応策が課題となっています。

(つづく)

野次馬話 第18話 「パロディー」

S43卒 遠藤照男

もじり文を書こうと思ったところ、「パロディー」の意味が気になり、辞書を開いてみた。パロディーparody：もじり詩文、滑稽な物真似、変な模倣／改作、猿真似／下手な真似、風刺的な模倣、とあった。

師匠に引き続き、何が面白いかわからない駄洒落しか話せない弟子や息子がいる。その落語なんぞ聞いたことがないのに、'05.春、名代を継いだと云って周りと一緒に大騒ぎしている。演題は滑稽でなくても、本人や回りの存在自体がパロディーである、と誰か云わないかと待っているのだが、誰も云わない。この人まで迎合しているのか、と幻滅する人が増えてしまった。日本人は本当に馬鹿になってしまったのか？

実在人物の伝記や成功譚のパロディーを書くことは、そこで誉めそやされている人の真実を暴露し、辛らつな言葉を浴びせることに繋がるので、また、私自身が人様を笑ってばかりいられる資格はないので、対象を物語とし、少しずつ付け足していこうと思っている。

(1) 一匹の目刺し

タイトルから見て、云うまでもなく、「一杯の掛けそば」をもじったものである。

父は3月で退職した。初めてハローワークなる所へ行き、失業保険の支給を申請してきたが、年配者には職を見つけることが難しいことを思い知らされて帰ってきた。彼は妻と娘の3人で集合住宅に住んでおり、勤めているときは一緒に夕食を摂ることなど滅多になかったが、退職後はいつも家におり、夕食も一緒に食べるようになった。ある日の夕食のおかずは目刺しだった。父の皿にだけ1匹多く2匹載っている。父は、「私は朝も食べたからいいよ。」と、目刺しを箸で半分に分け、妻と娘の皿に移した。しかし、妻も娘も「お父さん有難う。でもお父さん食べて」と父の皿に戻した。そして娘は明るく云った。「1年後には、きっと鰯の干物が食べれるようになっているわ。」

しかし、1年が経った夕食の場では、同じ会話が繰り返されていた。

★ 実は、今、鰯の漁獲量が激減し、高級魚の仲間入りしており、鰯を題材に使うことも、もじりなのであるが、ここまで感じ取ってくれる人がいるのだろうか？

「京機会九州支部 H23年春の行事」のご案内

日時：平成23年4月23日(土)～24日(日)

場所：鹿児島県 種子島、屋久島(オプション)

第一部：種子島観光 4/23(土) 15:00～17:00 種子島鉄砲館、千座の岩屋等

第二部：懇親会 門倉亭南荘 南種子島町中之上2237-2

TEL:0997-26-1221 <http://www3.ocn.ne.jp/~minami so/>

第三部：見学会 JAXA宇宙センター 4/24(日) 09:00～12:00 宇宙センター概要、宇宙科学技術館、大型ロケット射点

第四部<オプション>：屋久島観光 4/24(日) 宿泊 ホテル屋久島山荘

屋久島町安房2364-35 TEL:0997-46-2011 <http://www17.ocn.ne.jp/~yakusima/hotel/i/index.html>

《お願い：重要》 ・ 航空機、高速艇は各自で予約ください。

・参加申し込み方法：京機会ホームページからお願い致します。



申し込み期限：4月13日(水)

・宇宙センター特別見学申請のため4月13日(水)までに各自の身分証明書(運転免許証あるいはパスポートのコピー)の提出が必要です。

第二回 旧島進研究室・小寺秀俊研究室合同同窓会・研究報告会 開催のご案内

日時 平成23年3月20日(日曜日) 13時～

《研究報告会会場》 京都大学 工学部物理系校舎(216号室) 吉田キャンパス

《ポスターセッション会場》 工学部物理系校舎(214・215号室) 吉田キャンパス

《交流会会場》 聖護院御殿荘

お申込み等の詳細: <http://www.ksys.me.kyoto-u.ac.jp/>

問合せ先: ご不明な点、ご質問など、何なりと寺川まで

(e-mail: k.terakawa@ky3.ecs.kyoto-u.ac.jp)

近未来フィロソフィー研究会開催予告（'66年近辺卒業生同窓会）

秋は観光シーズンで京都の宿が取りにくいので、早めに案内案内致します。

2年ぶりの開催となります。多数の出席をお待ちしております。

記

1. 日時 平成23年10月22日（土） 17:00～20:00
2. 場所 京都タワーホテル
3. 講演 未定



幹事 中嶋邦彦



京機会中部支部 若手の会企画

白川郷の旅 1泊2日ツアー

- 日時: 2011年3月19日(土)～20日(日)
- 行先: 岐阜県大野郡白川村
- 宿泊先: トヨタ白川郷自然学校
<http://www.toyota.eco-inst.jp/main.html>
- アクティビティ: 雪の森のガイドウォーク

かんじきやスノーシューを履いて森へでかけます。真っ白い雪の上に足あとを残しながら進む気分は格別です。
(※装備はレンタル)



トレッキングの様子

- 集合: 3月19日 AM 8:30/JR名古屋駅
※移動はバスになりますので、公共交通機関を利用してご集合ください。
- 費用: 20000円/人 (1泊2食、アクティビティ(レンタル込)、交通費込)
(若干変更の可能性あり)
- お申込み・京機会 HP よりお申込みください

<http://keikikai.jp/shibu/cyubu/wakate.html>

今回は白川郷への1泊2日旅行です。世界遺産・白川郷を満喫し、白銀の世界を踏みしめる雪の森ガイドウォークを楽しんだ後は、温泉に入っておいしいご飯をいただくという、白川村を堪能する企画になっています。みなさんお誘い合わせの上、奮ってご参加ください！
(※集合等詳細は参加いただく方に再度ご連絡いたします。)

幹事 園田(2004卒)

1. 「TPP」って何？

利益？不利益？そもそも「TPP」って何？

<http://allabout.co.jp/gm/gc/324840/>

環太平洋戦略経済連携協定（TPP）の概要

JETRO 日本貿易振興機構

<http://www.jetro.go.jp/theme/wto-fta/basic/tpp/>

2. 環太平洋戦略経済連携協定（TPP）とは

2010年10月現在、TPPにはシンガポール、ニュージーランド、ブルネイ、チリ、米国、オーストラリア、ペルー、ベトナム、マレーシアの9カ国が交渉に参加している。TPPは2010年3月から、政府間交渉が開始され、物品貿易に加え、投資、サービス、政府調達など幅広い分野を対象としている。

<http://www.jetro.go.jp/theme/wto-fta/basic/tpp/tpp.pdf>

世界と日本の主要なFTA一覧

（最終更新2011年1月28日） JETRO海外調査部国際経済研究課

<http://www.jetro.go.jp/world/japan/reports/07000451>

http://www.jetro.go.jp/jfile/report/07000451/fta_ichiran.pdf

要旨： 世界と日本で発効済、調印済、合意済、交渉中等の段階にある主要なFTAについて、各協定の概要、進捗状況等を一覧にとりまとめた（2011年1月25日時点）。各国で多数のFTA交渉が行われている中で、日本企業にとって特に関心が高いと思われるものを抽出した。

一覧表はFTAの進展度合いに応じて以下の4つの段階に分類した。

- (1) 【発効済】
- (2) 【調印済、大筋合意済み】…政府間交渉は終了しているが批准が済んでいないもの
- (3) 【交渉中、交渉開始合意】…交渉が行われているもの、交渉開始に合意したものの
- (4) 【構想・検討段階、政府間予備協議など】…構想段階のもの、交渉に入っていないもの、過去に交渉されたが交渉中止となったもの

FFG調査月報 2011年2月 Vol. 33

ふくおかフィナンシャルグループ

<http://www.fukuoka-fg.com/tyosa/index.htm>

<http://www.fukuoka-fg.com/tyosa/201102/sangyou.pdf>

TPPが及ぼす日本経済への影響

～農業の現状と今後の展望も含めて～

昨秋より巷を賑わしている「TPP」に対しては、各業界から様々な反応が聞こえています。特に九州は、農業が盛んな地域であると同時に、自動車・半導体等の製造業の輸出比率が国内で最も高い地域でもある為、参加の有無を問わず、TPPによって大きな影響を受けるものと考えられています。今回は、TPPの概要についてご紹介するとともに、この制度が日本経済に対して与える影響や、なかでも特に大きな影響を受けるとされている農業の現状、そして今後の展望等について考察致します。

TPPの戦略的意味と日本がとるべき対応 2011年1月31日 富士通総研

<http://jp.fujitsu.com/group/fri/column/opinion/201101/2011-1-4.html>

TPPの戦略的意味： TPP（環太平洋戦略的経済連携協定）への交渉参加については、国内的には農業問題をどのように克服するかが最大の焦点となっているが、国際的には、アジア太平洋地域において、中国を牽制しつつ、日米が協調して経済及び安全保障面で、より密接な連携を保つことができるのか試金石になっていると思われる。

開国か鎖国か——TPPが問う「この国のかたち」

Diamond Online

<http://diamond.jp/articles/-/10104>

TPP参加は「強い安保・経済」への分水嶺 2010年12月21日 WEDGE OPINION

<http://wedge.ismedia.jp/articles/-/1169>

谷内正太郎

TPP交渉への参加表明を受け、農業問題ばかりに焦点が当たっている。TPP参加の意義は経済面だけでなく、安全保障にも及ぶことも見逃せない。中国が急速に軍事力を高めようとしている中、日本の平和と安定には、アジア主義ではなく、太平洋同盟網の維持において他にない。縮み志向に陥る日本。飛び乗るべきバスは、1つしかない。

TPPが突き付けるのは農業問題だけか 2010年11月19日 WEDGE 中島厚志

いまこそ必要な経済のグローバル化と活性化

<http://wedge.ismedia.jp/articles/-/1138>

10月に菅総理はTPP（環太平洋経済連携協定）への日本の参加を検討するとし、APEC首脳会議の折の11月13日には「国内の環境整備を早急に進めるとともに、関係国との協議を開始する」と表明した。TPPは、加盟国間の貿易についての関税撤廃だけでなく、ヒトの移動、サービス、基準認証などの共通化を図るなど高い水準の自由貿易圏を目指すものであり、関税撤廃で安い海外農産物の流入が想定される農業では反対論が高まっている。しかし、賛否両論が噴出する中で、TPPがもたらすものは関税撤廃に止まらない。

3. 推進派の意見！？

TPPを恐れない3人の農家 2011年01月29日 WEDGE Infinity 編集部

<http://wedge.ismedia.jp/articles/-/1214>

「日本がTPPに参加しようがしまいが、きちんと食べていけるような仕組みを作るのが農業経営者の仕事です」。

農業開国論 【第19回】米韓FTA決着が日本に迫る発想の転換

TPPは農業の破壊神にあらず、救世主 2010年12月06日

民主党・戸別所得補償の設計ミスを正す好機だ DIAMOND ONLINE 山下一仁

<http://diamond.jp/articles/-/10335>

米韓FTA（自由貿易協定）が合意に達した。貿易自由化の波に取り残されないためにも日本は、TPP（環太平洋戦略的経済連携協定）に参加する必要がある。その際、農業を守りたいならば、農政の欠陥を正さなければならない。それができれば、TPPは農業の救世主となる。

日本の農業 TPP参加で本当にダメになる？ 2010.11.08 WEDGE 渡邊頼純

<http://wedge.ismedia.jp/articles/-/1126>

今月13～14日に横浜で開催されるアジア太平洋経済協力会議（APEC）の首脳会議。この場で議題となる環太平洋パートナーシップ協定（TPP）への参加検討を菅首相が表明すると、農業セクターへの影響を懸念した反対の声が相次ぎ、国内は混乱を極めている。1年以上前から日本のTPP入りを支持し、かつて日本・メキシコ経済連携協定（EPA）交渉にも深く関わった、慶應義塾大学総合政策学部・渡邊頼純教授に、このTPP参加の是非を巡る議論のポイントとなる、農業と自由化についてインタビューした。

新潮流アメリカ NEWSWEEK プリンストン発 by 冷泉彰彦

TPP交渉に向けて、日本の農業は何を核に据えれば良いのか？

<http://www.newsweekjapan.jp/reizei/2010/11/post-220.php>

TPP参加のキャスティングボートを握る日本の農業は DIAMOND 原 英次郎

GDPの0.9%、就業者数の3.8%の極小産業

<http://diamond.jp/articles/-/9965>

日本農業、再構築への道 Japan Business Press

(1) 日本人がこれほど「食料自給率」に怯える理由

<http://jbpress.ismedia.jp/articles/-/4595>

(2) 心配は無用、食糧危機はやって来ない

<http://jbpress.ismedia.jp/articles/-/4694>

- (3) 食糧危機がまだ心配？4つのリスクは杞憂に過ぎない
<http://jbpress.ismedia.jp/articles/-/4791>
- (4) 日本は農村が動かしている国である
<http://jbpress.ismedia.jp/articles/-/4874>
- (5) 日本の農業改革が進まない本当の理由
<http://jbpress.ismedia.jp/articles/-/4969>
- (6) 日本農業はオランダ型を目指せ
<http://jbpress.ismedia.jp/articles/-/5063>

ドロッカーで読み解く農業イノベーション

JBPress

- (1) 農業は遅れていない、レベルが高すぎるのだ
<http://jbpress.ismedia.jp/articles/-/4551>
- (2) 「ヤミ米」で農政を突き動かした男
<http://jbpress.ismedia.jp/articles/-/4618>
- (3) なぜ長野のレタス農家は圧倒的に強いのか
<http://jbpress.ismedia.jp/articles/-/4716>
- (4) 「兼業農家」と戦って勝てるわけがない
<http://jbpress.ismedia.jp/articles/-/4812>
- (5) 専業農家を救う「コメよりもっと儲かる」作物とは
<http://jbpress.ismedia.jp/articles/-/4876>
- (6) 「ブランド米」産地、次の日本一はどこ？
<http://jbpress.ismedia.jp/articles/-/4995>
- (7) 「『非常識』なアウトソーシングで生産性を上げよう」
<http://jbpress.ismedia.jp/articles/-/5089>
- (8) 「農薬は食塩よりも安全である？」
<http://jbpress.ismedia.jp/articles/-/5168>
- (9) 「農業の『資金調達』の壁が破られる日」
<http://jbpress.ismedia.jp/articles/-/5275>
- (10) 「6次産業化」しろと言われてもできません
<http://jbpress.ismedia.jp/articles/-/5362>

農家戸別所得補償制度は悪くない 2011年1月24日 大和総研 原田 泰
～5つの誤解とあるべき制度～

<http://www.dir.co.jp/souken/research/report/harada/11012401harada.html>

<http://www.dir.co.jp/souken/research/report/harada/11012401harada.pdf>

◆農家戸別所得補償制度は欠陥が多いという意見が多いようだが、本来の制度を行うのであれば、優れた制度である。また、これによって、TPPにも参加できるのであるから、さらに優れた制度となる。

◆農家戸別所得補償制度に関する5つの誤解を解いて、本来なすべき「デカップリングされた所得補償制度」を採用すべきことを訴えたい。

特集 農産物輸出拡大の可能性 AFCフォーラム2011.1 日本政策金融公庫

<http://www.afc.jfc.go.jp/information/publish/afc-month/2011/01.html>

http://www.afc.jfc.go.jp/information/publish/afc-month/pdf/AFC_Forum1101.pdf

特集 農産物輸出拡大の可能性

今や待ったなし農産物輸出戦略の構築

海外現場から日本農業へのアドバイス

農産物輸出成功のカギは攻めの姿勢

クール・ジャパン 官民有識者会議（第3回）- 配付資料

http://www.meti.go.jp/committee/kenkyukai/seisan/cool_japan/003_hai fu.html

ものづくり・地域産品分野の目標・位置付け

http://www.meti.go.jp/committee/kenkyukai/seisan/cool_japan/003_01_00.pdf

食分野の市場規模と目標規模

http://www.meti.go.jp/committee/kenkyukai/seisan/cool_japan/003_02_00.pdf

「一票の格差是正は、経済の構造改革を推し進める」 平成23.1.25 リソナ銀行

<http://www.resona-gr.co.jp/resonabank/nenkin/info/economist/pdf/110125.pdf>

4. 反対派の意見！？

「正義派の農政論」

農業協同組合新聞 森島 賢

(1) TPP参加は日本農業の壊滅への道

<http://www.jacom.or.jp/column/nouseiron/nouseiron101025-11370.php>

(2) TPPは夢のまぼろし

<http://www.jacom.or.jp/column/nouseiron/nouseiron101101-11475.php>

(3) TPPは日本農業壊滅の最終場面

<http://www.jacom.or.jp/column/nouseiron/nouseiron101108-11552.php>

(4) いわゆる開国と農業は両立できない

<http://www.jacom.or.jp/column/nouseiron/nouseiron101115-11646.php>

(5) TPPのための高齢者排除

<http://www.jacom.or.jp/column/nouseiron/nouseiron101122-11726.php>

(6) TPPは農家の兼業者の賃金を下げ、失業させる

<http://www.jacom.or.jp/column/nouseiron/nouseiron101206-11871.php>

(7) TPPに参加して自給率を上げるのは無理だ

<http://www.jacom.or.jp/column/nouseiron/nouseiron110117-12234.php>

(8) アジアに背を向ける TPP

<http://www.jacom.or.jp/column/nouseiron/nouseiron110124-12305.php>

(9) 農業に疎い民主党

<http://www.jacom.or.jp/column/nouseiron/nouseiron110131-12387.php>

農業・農政の未来を語る 平成23. 1. 11 農協共済総合研
—中長期的視点に立った確かな日本農業をつくる指針と条件—

<http://www.nkri.or.jp/PDF/2010/teidan201101.pdf>

貿易自由化論議と日本農業の展望

<http://www.nkri.or.jp/social/seminar/index.html>

資料 「貿易自由化論議と日本農業の展望」

http://www.nkri.or.jp/PDF/2010/seminar201101_suzuki.pdf

農林水産政策研究所 レビューNo. 39 ()

<http://www.maff.go.jp/pri/maff/koho/seika/review/review39.html>

農業・農村の持続的発展のために 2011. 1. 17 農林水産政策研究所長 長清
—求められる政策研究の充実—

<http://www.maff.go.jp/pri/maff/koho/seika/review/pdf/pri/maffreview2010-39-1.pdf>

韓国の FTA, EPA の状況と農政 国際領域主任研究官 會田陽久、樋口倫生

<http://www.maff.go.jp/pri/maff/koho/seika/review/pdf/pri/maffreview2010-39-6.pdf>

4. アンケート結果 2011年1月25日 帝国データバンク 熊本支店

TPPに関する熊本県内企業の意識調査

PPへの参加、企業の59.8%が日本にとって必要

参加に最も必要なものは、参加後の経済の姿提示

http://www.tdb.co.jp/report/watching/press/s110101_87.html

調査期間は2010年12月16日～2011年1月5日。調査対象は熊本県内203社で、有効回答企業数は82社（回答率40.4%）。

調査結果

○ TPP参加の必要性、日本にとっては59.8%が「必要」、

自社業界では4割弱。企業の59.8%と半数以上が日本にとってTPP参加を必要と認識。一方、自社業界に限れば37.8%が「必要」。

○ TPPへの参加、現状でも「参加可能」とする企業は41.4%

農業問題などさまざまな課題があるなかでも、日本がTPPに参加することができると思う企業は41.4%にのぼる。

- TPP 参加に最も必要なもの、「参加後のビジョンの提示」が 45.1%と突出
農業部門などへの総合対策案提示は 2 割弱にとどまる。企業は、TPP に参加するだけでなく、参加後の日本経済の姿がどうなるかを重視している。
- TPP に参加しなかった場合、64.7%の企業が景気に「悪影響あり」と認識
TPP に参加しなければ、多かれ少なかれ長期的な景気に「悪影響がある」と認識している企業は 64.7%。「悪影響はない」は 4.9%にとどまる。
- 最も望ましい枠組み、自由貿易協定が 30.5%で最多、TPP は 19.5%
今後の日本経済の発展にとって最も望ましい枠組みとして、企業の 30.5%が FTA と回答。TPP は 19.5%。

詳細は http://www.tdb.co.jp/report/watching/press/pdf/s110101_87.pdf

東海 4 県の企業の TPP に関する意識調査

2011. 1. 24 帝国データバンク 名古屋支店情報部

TPP 「必要」66%、全国平均上回る

～「製造」は 7 割、「不参加」で 7 割超が悪影響を懸念～

http://www.tdb.co.jp/report/watching/press/s110103_40.html

調査期間は 2010 年 12 月 16 日～2011 年 1 月 5 日。調査対象は愛知、岐阜、三重、静岡の東海 4 県の 2455 社で、有効回答企業数は 1182 社（回答率 48.1%）。

調査結果

- 調査結果によると、東海 4 県の 1182 社のうち 66.3%に当たる 784 社が「日本にとって、TPP は必要」と考えていることが判明。また、1182 社のうち 41.3%に当たる 488 社が「自社の属する業界にとって TPP は必要」と判断している。規模別では、構成比ベースで『中小企業』が『大企業』を 5.5 ポイント上回り、『製造』では 2 社に 1 社が TPP は自社の業界にとって「必要」と回答。「TPP 不参加による景気への影響」については、865 社、73.2%の企業が「悪影響がある」としており、全国平均を 0.8 ポイント上回った。

詳細は http://www.tdb.co.jp/report/watching/press/pdf/s110103_40.pdf

TDB 景気動向調査（特別企画）：TPP に関する企業の意識調査 2011 年 1 月 11 日

TPP への参加、企業の 65.0%が日本にとって「必要」

～不参加の場合、7 割超の企業が景気に「悪影響」と認識～

http://www.tdb.co.jp/report/watching/press/keiki_w1012.html

http://www.tdb.co.jp/report/watching/press/pdf/keiki_w1012.pdf

2011 年の中小企業の経営施策

<http://www.sanno.ac.jp/research/forecast2011.html>

学校法人産業能率大学は、中小企業の経営者を対象に 2011 年の経営方針や採用

方針などを尋ねました。調査は、インターネット調査会社を通じて実施、従業員6人以上300人以下の企業経営者（経営トップ）688人から回答を得ました。

結果概要

(1) この一年で経営に影響を与えそうな要因

2011年に、経営活動に影響を与えそうな主な要因を尋ねました。影響が大きかったものから優先して3つまで選択を求めました。もっとも回答が多かったのは「国の政策の変化」。次に多かったのは「需要の不足」で、「国際情勢の悪化」、「業界構造の変化」、「資金繰りの悪化」と続きます。

(2) 2011年（今年）、優先的に取り組みたいこと

2011年に優先して取り組みたいことについて尋ねました。優先度が高いものを3つ選択することを求めました。全体では、「営業力の強化」が最も高くなっています。次いで、「利益率の向上（コスト構造の見直し）」、「顧客満足度の向上」、「市場シェアの拡大」、「従業員の教育・育成」と続きます。（下図）

(3) 期待する景気対策

経営者として、重要度が高いと考える景気対策について尋ねました。全体では、「法人税減税」が最も高く、次いで「消費刺激」、「公共投資」と続きます。

(4) 環太平洋経済連携協定（TPP）

環太平洋戦略的経済連携協定（TPP）に参加すべきだと思うかを尋ねました。「参加すべき」が83.3%で大半を占めました。

(5) 今春（2011年4月）入社の新卒採用活動

新卒採用活動の実施状況と2011年4月入社の新卒採用の予定、活動状況を尋ねました。新卒採用を実施しているのは35.5%。このうち2011年4月入社の採用予定があるのは39.3%でした。2011年4月入社の採用予定がある会社のうち、採用活動を終えかつ採用意欲もない層は26.0%にとどまっており、4月が差し迫るこの時期においても、引き続き採用意欲を持っている経営者が多いことがわかります。

「2011年の中小企業の経営施策」

<http://www.sanno.ac.jp/research/pdf/forecast2011.pdf>

5. 菅総理の世界経済フォーラム WEF2011 年年次総会（ダボス会議）出席概要

http://www.kantei.go.jp/jp/kan/actions/201101/29davos_gaiyou.html

菅総理は、1月28日から1月30日まで、世界経済フォーラム（WEF）年次総会（通称「ダボス会議」）に出席するため、スイスを訪問。1月29日に特別講演を行ったほか、有識者との会合やビジネス・リーダー等との昼食会、ジャパン・セッションでの冒頭挨拶、ソロス氏との会談を行った。

(1) 特別講演 <http://www.kantei.go.jp/jp/kan/statement/201101/29davos.html>

1月29日、菅総理は、「新しい現実のための共有規範」をテーマとする本年のWEF年次総会において、「開国と絆」と題する特別講演を行った（シュワブWEF会長が進行役・コメンテーター）。冒頭、総理は、現下のエジプト情勢について、ムバラク大統領が国民との対話の中から、国民が幅広く参加する政権を作り、政治的安定と市民生活の平静を取り戻すことを期待する旨述べた。総理は、現在の日本で、精神面と経済面で閉塞を打ち破っていく「開国」が必要であると同時に、それにより人と人との関係に断絶が生じないように、改めてつなぎ合わせる「絆」が必要であるとして、次のポイントに沿って、世界に向けてメッセージを発信した。

- a. 自らを開く：新しい現実、150年前に学ぶ開国の思想、開国を具体化する経済連携の推進、農業の再生に開国の精神で挑む、開国の精神によるイノベーションによる成長制約の克服。
- b. 新しい絆を創造する：最小不幸社会の実現に必要な新しい絆、絆の観点から働くことの価値を再定義する、日本が発信する螺旋階段型の発展、「新しい絆の創造」を柱に国際貢献を進める、APECの「あまねく広がる成長」の取組。
- c. 結び～日本を、そして世界をクロスカップリングする：世界のリーダーに期待されるのはクロスカップリングにおける触媒の役割。開かれた将来を築く挑戦において人々が社会から切り離されないよう新しい絆でつなぎ直すことが求められる。

第5回議事次第 食と農林漁業の再生実現会議 幹事会 平成23年1月28日

http://www.npu.go.jp/policy/policy05/archive03_05.html#haifu

各有識者提出資料

川満 長英 沖縄県宮古島市上野地区 さとうきび生産者組合長

http://www.npu.go.jp/policy/policy05/pdf/20110131/siryout_1.pdf

原井 松純 酪農家（JA道東あさひ代表理事組合長）

http://www.npu.go.jp/policy/policy05/pdf/20110131/siryout_2.pdf

松延 利博 JAふくおか八女代表理事組合長

http://www.npu.go.jp/policy/policy05/pdf/20110131/siryout_3.pdf

佐々木明久 日清製粉株式会社取締役社長

http://www.npu.go.jp/policy/policy05/pdf/20110131/siryout_4.pdf

地方農政局等による今後の国内農業対策に係る提言 H23.1.2 地方農政局会議

<http://www.npu.go.jp/policy/policy05/pdf/20110131/siryout3.pdf>

農林水産省「食と農林漁業の再生推進本部」における市町村長との意見交換会での指摘事項の概要（平成23年1月18日、19日）

<http://www.npu.go.jp/policy/policy05/pdf/20110131/siryout4.pdf>

食料・農業・農村政策審議会企画部会（第26回）配付資料一覧 H23.1.31
<http://www.maff.go.jp/j/council/seisaku/kikaku/bukai/230131/index.html>

資料1 第2回食と農林漁業の再生実現会議配付資料(抜粋)

<http://www.maff.go.jp/j/council/seisaku/kikaku/bukai/230131/pdf/data-1.pdf>

資料2 「平成22年度食料・農業・農村の動向」(動向編)及び「平成23年度食料・農業・農村施策」(施策編)の作成について(案)

<http://www.maff.go.jp/j/council/seisaku/kikaku/bukai/230131/pdf/data-2.pdf>

資料3 農林水産省における政策評価について

<http://www.maff.go.jp/j/council/seisaku/kikaku/bukai/230131/pdf/data-3.pdf>

資料4 茂木守委員提出の書面コメント

<http://www.maff.go.jp/j/council/seisaku/kikaku/bukai/230131/pdf/data-4.pdf>

食料・農業・農村政策審議会食糧部会 資料（23年2月2日開催）

<http://www.maff.go.jp/j/council/seisaku/syokuryo/110202/index.html>

資料1 諮問（写）

<http://www.maff.go.jp/j/council/seisaku/syokuryo/110202/pdf/data1.pdf>

資料2 米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針（案）

<http://www.maff.go.jp/j/council/seisaku/syokuryo/110202/pdf/data2.pdf>

参考資料1 最近の米をめぐる関係資料

<http://www.maff.go.jp/j/council/seisaku/syokuryo/110202/pdf/refdata1.pdf>

参考資料2 第2回食と農林漁業の再生実現会議配布資料（抜粋）

<http://www.maff.go.jp/j/council/seisaku/syokuryo/110202/pdf/refdata2.pdf>

参考資料3

食と農林漁業の再生推進本部及び食と農林漁業の再生実現会議の体制について

<http://www.maff.go.jp/j/council/seisaku/syokuryo/110202/pdf/refdata3.pdf>

参考資料4 包括的経済連携に関する基本方針

<http://www.maff.go.jp/j/council/seisaku/syokuryo/110202/pdf/refdata4.pdf>

参考資料5 TPPについて（内閣官房資料抜粋）

<http://www.maff.go.jp/j/council/seisaku/syokuryo/110202/pdf/refdata5.pdf>

平成22年度第3回農業農村振興整備部会 配布資料一覧 平成23年2月3日

http://www.maff.go.jp/j/council/seisaku/nousin/bukai/h22_3/index.html

資料1 食料・農業・農村政策審議会関係資料

http://www.maff.go.jp/j/council/seisaku/nousin/bukai/h22_3/pdf/data1.pdf

資料2 食料・農業・農村政策審議会 農業農村振興整備部会における技術小委員会の設置について

http://www.maff.go.jp/j/council/seisaku/nousin/bukai/h22_3/pdf/data2.pdf

資料3 農業生産基盤の整備と保全管理について

http://www.maff.go.jp/j/council/seisaku/nousin/bukai/h22_3/pdf/data3-1.pdf

http://www.maff.go.jp/j/council/seisaku/nousin/bukai/h22_3/pdf/data3-2.pdf

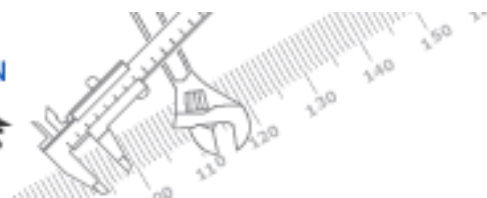
http://www.maff.go.jp/j/council/seisaku/nousin/bukai/h22_3/pdf/data3.pdf

資料4 平成22年度農業農村振興整備部会 検討の進め方

http://www.maff.go.jp/j/council/seisaku/nousin/bukai/h22_3/pdf/data4.pdf

資料5 国際かんがい排水委員会（ICID）などの活動

http://www.maff.go.jp/j/council/seisaku/nousin/bukai/h22_3/pdf/data5.pdf



報告

暦の上では春となりましたが、まだまだ肌寒い日が続いております今日この頃、皆様いかがお過ごしでしょうか。

KARTでは、目前に迫ったシェイクダウンに向け、車両製作がいよいよ佳境に入っております。1日でも早く皆様に車両の完成をご報告出来るよう、チーム一同、全力を尽くしておりますので、引き続きご声援のほどよろしくお願い申し上げます。

○車両製作状況

大学が春期休暇に入り作業時間が増加したことで、車両製作が大幅に進展しました。

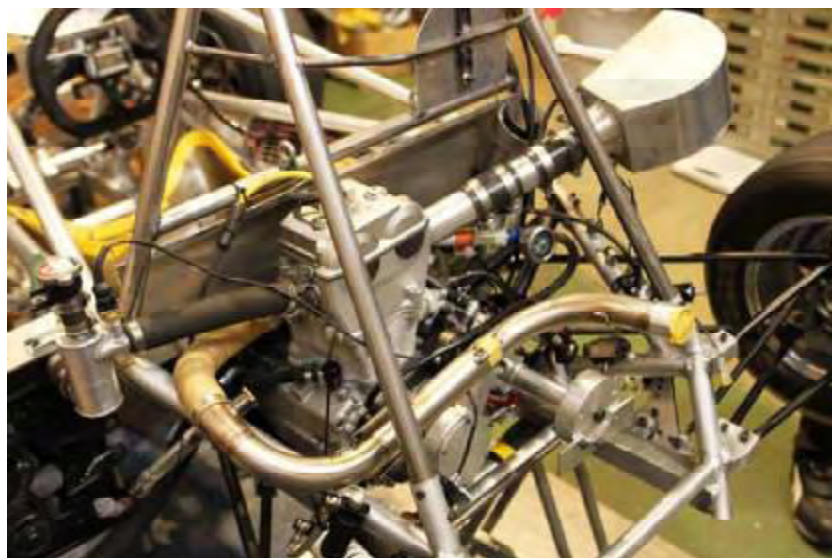
まず、先月末に念願だった車両の着地をようやく果たすことができました。外注部品の納期遅れや、発注ミスなど、紆余曲折を経



での着地だっただけに、車両が地面に降り自立した際には、メンバーに喜びと安堵の表情が浮かびました。また、ステアリングやシフト、ブレーキの製作・組み付けも着地の裏で順調に進んでおり、シャシ全体としても、完成形が見えています。

エンジン周辺パーツでは、燃料・冷却ラインの組み付けが完了し、吸排気系パーツに関しても、ほぼ作業が完了しました。燃料・冷却ラインについては、各部品のレイアウトの工夫や、シンプルな取り回しを心掛けた結果、昨年度と比べ、ライン長さを大幅に短縮させることに成功しました。また配線作業も例年になく順調に進み、2月中に無事完了させることができました。今後は、エンジンの始動テストを行ったうえで、万全の態勢でシェイクダウンを迎える予定です。

着地までには、予想以上に時間がかかってしまい、皆様にご心配をお掛け致しましたが、状況に応じてスケジュールを前倒しするなど、柔軟な対応を取った結果、最重要目標である早期シェイクダウンは無事達成できそうです。シェイクダウンまでに残された作業はあとわずかですが、最後まで気を抜かずに地道に作業を進めていく所存です。



「京都大学同窓会」および「京都大学ホームカミングデイ」の

— 愛称の募集 —

京都大学同窓会が平成18年11月に設置され、今年で5周年を迎えます。この機会に、京都大学同窓会および京都大学ホームカミングデイに、より一層の愛着と親しみを持っていただけるような愛称を下記により募集します。

多くの皆さんからのご応募をお待ちしております。

記

- 1, 募集対象 京都大学の同窓生（卒業生、元教職員）、教職員及び学部学生・大学院生
- 2, 応募方法 別紙様式により下記の京都大学内 京都大学同窓会事務局まで、郵送又はメール（alumni@www.adm.kyoto-u.ac.jp）によりご送付ください。
- 3, 応募件数 お一人、それぞれ2件までとします。同窓会又はホームカミングデイの愛称のいずれか一方の応募だけでも結構です。
- 4, 応募期間 平成23年2月21日（月）～同年8月31日（水）まで。メールによる応募は、8月31日の午後5時まで必着。郵便の場合は、同日の消印まで有効とします。
- 5, 審査 審査委員会（京都大学同窓会幹事会）において厳正に行います。
- 6, 表彰 採用された愛称の提案者には、記念品を贈呈いたします。
- 7, 応募愛称等の取り扱い
 - (1)愛称、説明、由来等は、必要に応じて修正・補正して使用場合があります。
 - (2)採用作品に関する著作権その他一切の権利は京都大学同窓会に帰属するものとします。
 - (3)応募作品は、返却いたしません。
 - (4)応募者の個人情報は、本件の審査、決定、発表の目的でのみ使用させていただきます。

（問い合わせ先）

〒606-8501 京都市左京区吉田本町

京都大学内

京都大学同窓会事務局 小坂、中村

TEL：075-753-2029

E-mail：alumni@www.adm.kyoto-u.ac.jp

(別紙様式)

「京都大学同窓会」および「京都大学ホームカミングデイ」の
愛称について（応募）

氏名	(男・女)
所属	①卒業・修了生（学部名： ・ 年卒業）（研究科等名： ・ 年修了） ②元教職員（最終の勤務部局： ） ③教職員（現勤務部局： ） ④学部学生（学部名： ・ 学年） ⑤大学院生（研究科等名： ・ [修士・専門職・博士] 課程 学年）
住所	〒
連絡方法	TEL ()
	Mail

事項	愛称	説明、由来等
京都大学 同窓会 愛称	① (記入例) 〇〇会 (△△△△ かい) ※ 読み方をひら かなで記入く ださい。	(200字以内)
	② (同上)	(同上)
ホームカ ミングデ イ愛称	① (記入例) 〇〇祭 (△△△△ さい) ※ 読み方をひら かなで記入 ください。	(200字以内)
	② (同上)	(同上)